

◎ 療育福祉センターの状況



I 肢体不自由児通園施設 「こじか」



【肢体不自由児通園施設の概要】

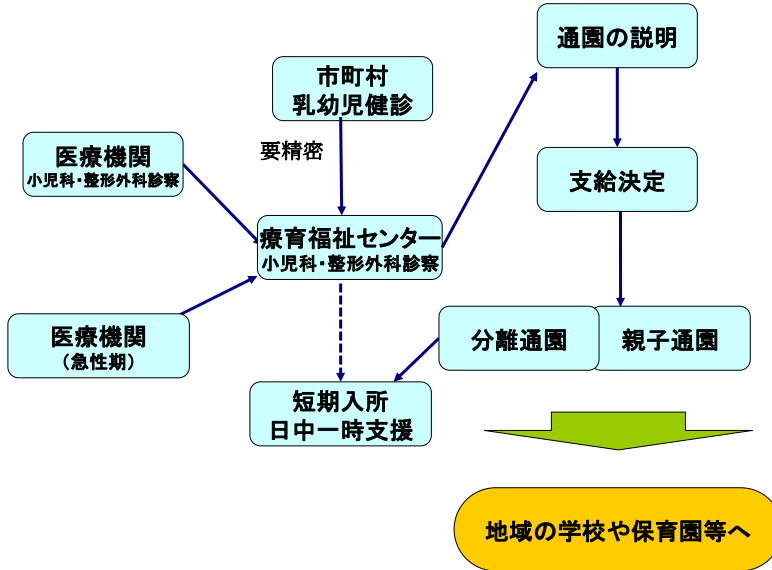
- 職員配置: 医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士、児童指導員等
※専任職員: 2名(保育士1名・児童指導員1名、他は兼務)
- 定員: 20名
- 対象: 上肢、下肢、又は体幹の機能の障害のある児童(親子通園)
- 就園、就学に向けた親子通園(一部分離通園)の支援を行う

☆感覚を刺激する遊びなど各種の療育活動を通じて、自発性や意欲の芽を育て、基本的な生活習慣の形成や感覚機能の促進、コミュニケーションの発達を促す支援を行う。

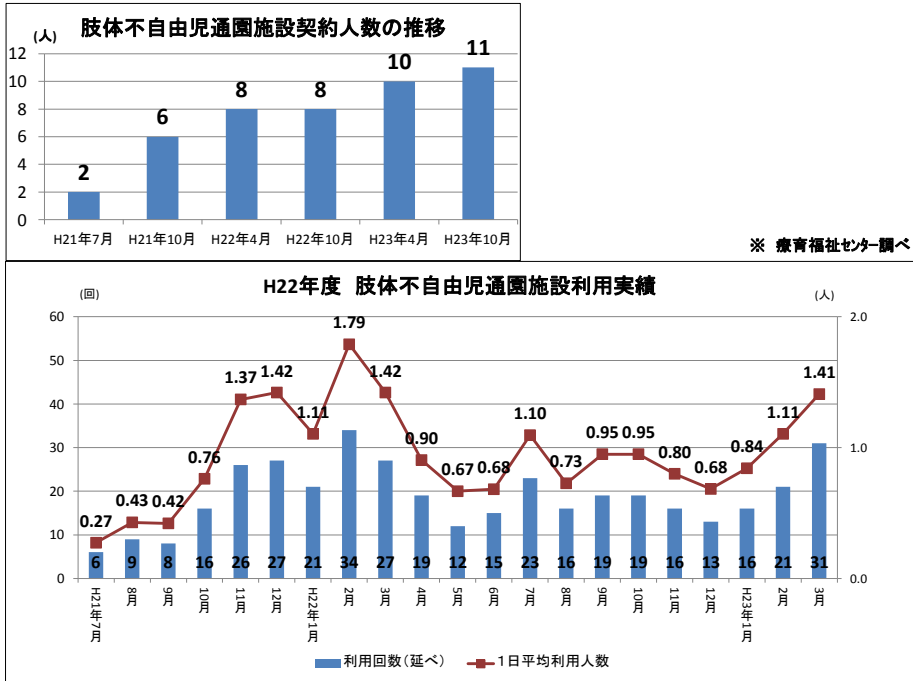
○1日の流れ

時 間	活動内容	備 考
10:00～10:30	登園、朝の会、健康チェック	* 必要に応じ、個別プログラムによる活動
10:30～11:10	療育活動(主に集団保育)	
11:10～13:00	排泄、昼食準備、昼食	* 昼食時、言語聴覚士による摂食指導が入るケースあり
13:00～	終わりの会、降園	

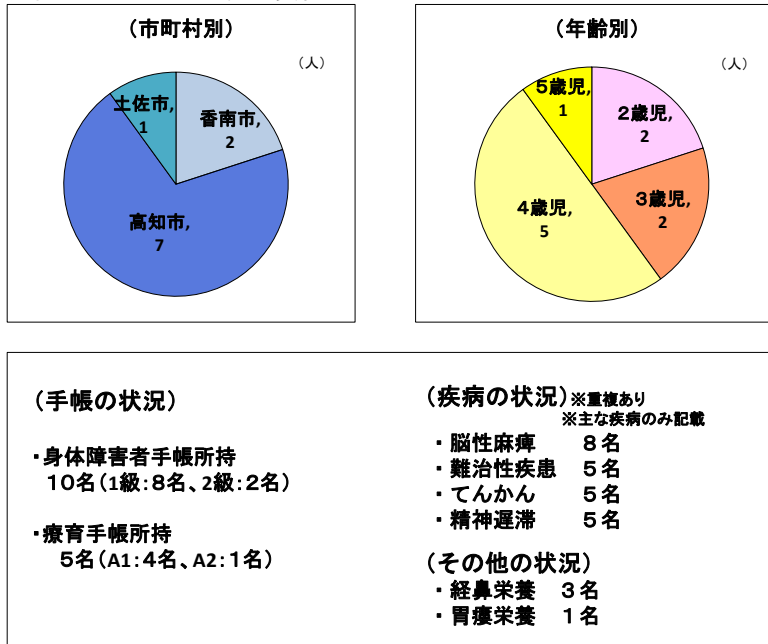
○療育への主な流れ(肢体不自由児通園施設)



1. 肢体不自由児通園施設の契約児の推移と利用実績



2. 肢体不自由児通園施設の契約児(10名)の状況 (H23.3.31現在)



3. その他

- ・ 家族支援(ミュージックケア・子育てサロン)
- ・ 関係機関訪問支援事業(保育所(2)・学校等(4)・病院(3))

Ⅱ 難聴幼児通園施設



【難聴幼児通園施設の概要】

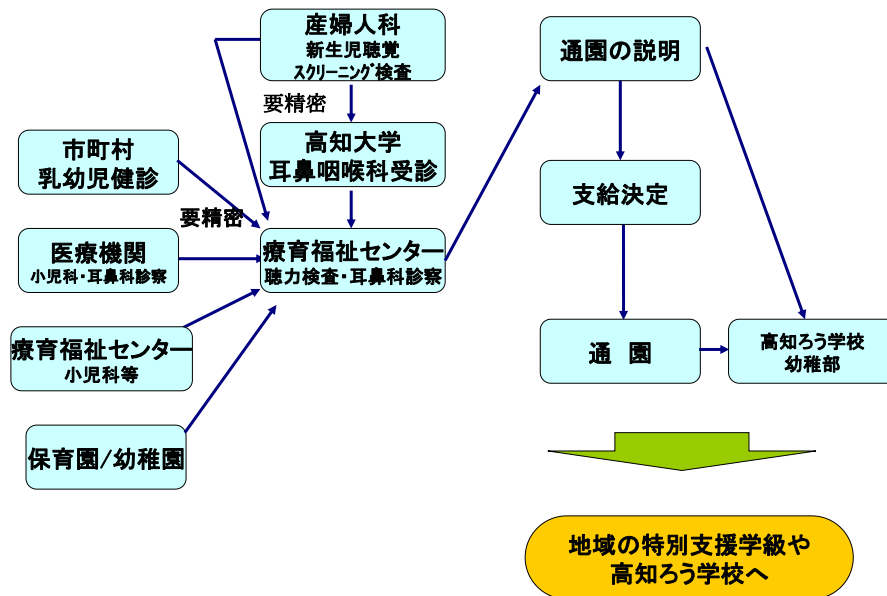
- 職員配置: 医師、児童指導員、保育士、聴能言語指導員、言語聴覚士等
※専任職員: 6名(言語聴覚士2・聴能言語指導員2・保育士1・児童指導員1、
他は兼務)
- 定員: 30名
- 対象: 難聴の乳幼児であって、聴力や言語能力の機能訓練・支援等を行うことが
適当である児童(親子通園)
- 発達段階や障害の程度に応じた個別支援及びグループ支援を行う。

○1日の流れ

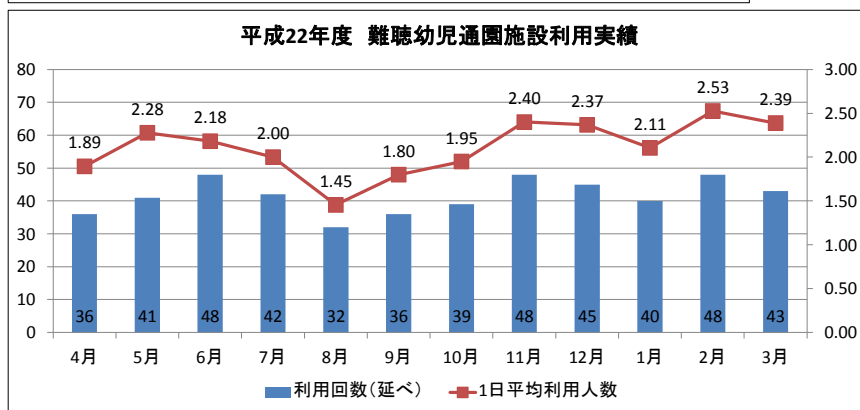
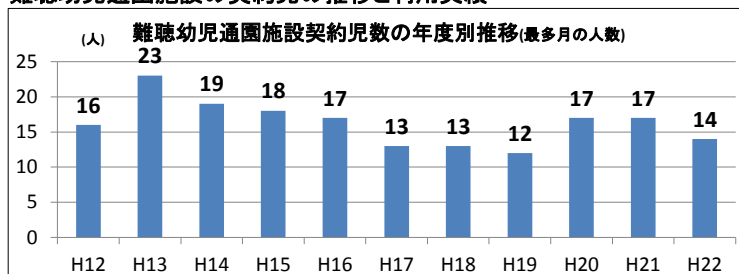
時 間	活動内容
*午前の部 9:30～	登園、支援開始
9:30～11:30	療育活動 (個別支援やグループ支援)
11:30～12:00	昼食指導、保護者支援
12:00	降園
*午後の部 13:30～	登園、支援開始、療育活動
15:00	降園
15:30～	登園、支援開始、療育活動
17:00	降園

☆定期的に聴力検査を実施し、個々の聞こえに応じた補聴器を調整するとともに、聴能学習を行いながら言語・コミュニケーションの発達を促す支援を行う。

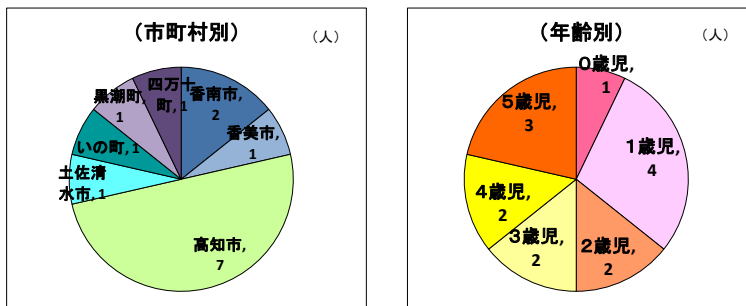
○療育への主な流れ(難聴幼児通園施設)



1. 難聴幼児通園施設の契約児の推移と利用実績



2. 難聴幼児通園施設の契約児(14名)の状況 (H23.3.31現在)



(聴力レベル別・手帳級別の状況) ※感音性難聴 14名

障害程度 (dB)	身体障害者手帳未所持		身体障害者手帳所持者					合計
	軽度	中度	6級	4級	3級	2級	計	
			高度			最重度		
			(30-49)	(50-69)	(70-79)			
男	6	1	0	1	2	1	4	11
女	0	1	1	0	0	1	2	3
計	6	2	1	1	2	2	6	14

3. その他

○療育福祉センターで難聴と診断された児数 (平成18年度～22年度)

年度	総新患数 (人)	検査内訳	新患数内訳	難聴の確定診断			難聴児合計	
				軽中度	高度	片耳	内訳数	総数
18	76	新スク	7	0	2	0	2	11
			69	6	0	3	9	
19	84	新スク	13	2	0	4	6	17
			71	6	2	3	11	
20	83	新スク	9	1	1	1	3	14
			74	8	1	2	11	
21	78	新スク	6	0	0	1	1	13
			72	6	1	5	12	
22	60	新スク	6	0	0	2	2	11
			54	6	2	1	9	
総数 (人)	381			35	9	22		66

※新生児聴覚スクリーニング検査後の精密検査を(新スク)と表す。
 ※新スク以外の当部でのきこえの検査を(非新スク)と表す。

○相談・検査実施件数(過去3年間)

	年度	耳鼻科診察	聴力検査	補聴器調整	発達検査	合計
新規受付児	20年	111	227	1	32	371
	21年	105	202	6	38	351
	22年	92	170	3	28	293
継続支援児	20年	78	136	4	8	226
	21年	78	102	1	20	201
	22年	54	94	3	15	166
元入園児	20年	5	17	1	1	24
	21年	4	9	1	2	16
	22年	4	12	4	0	20
入園児	20年	25	173	12	6	216
	21年	24	126	22	17	189
	22年	31	95	14	3	143

(H22年度実績)

・ 早期発見業務

新生児聴覚スクリーニング検査後に「要再検査」の場合は産科施設から精密検査機関である高知大学耳鼻咽喉科に紹介され受診後、同じく精密検査機関である当部で聴覚の評価を行う。その後、診断が確定するまで継続的な児及び保護者支援に取り組んでいる。

・ きこへの相談活動

① 幡多きこへの相談会(幡多福祉保健所の主催)

年2回実施 (検査相談児数 計5名)

② 人工内耳マッピング(高知大学耳鼻咽喉科との連携)

計17件 (検査児数 5名)

・ 高知ろう学校との連携

高知ろう学校の協力を得て、年長児が就学後、速やかに学習言語に移行できるための言語指導教室を10回開催した。

・ 保育園・幼稚園・家庭訪問等

① 保育園・幼稚園訪問 29回

② 家庭訪問 3回

③ 病院訪問 2回

・ 研修会等の開催

利用者研修会 7回

手話講座 8回

(参考)高知ろう学校幼稚部在籍幼児数(H23.5.1現在)

年別	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
幼	0	3	1	3	5	5	4	3	1	1	2	1	2	2

Ⅲ 児童デイサービス「える」



【児童デイサービス「える」の概要】

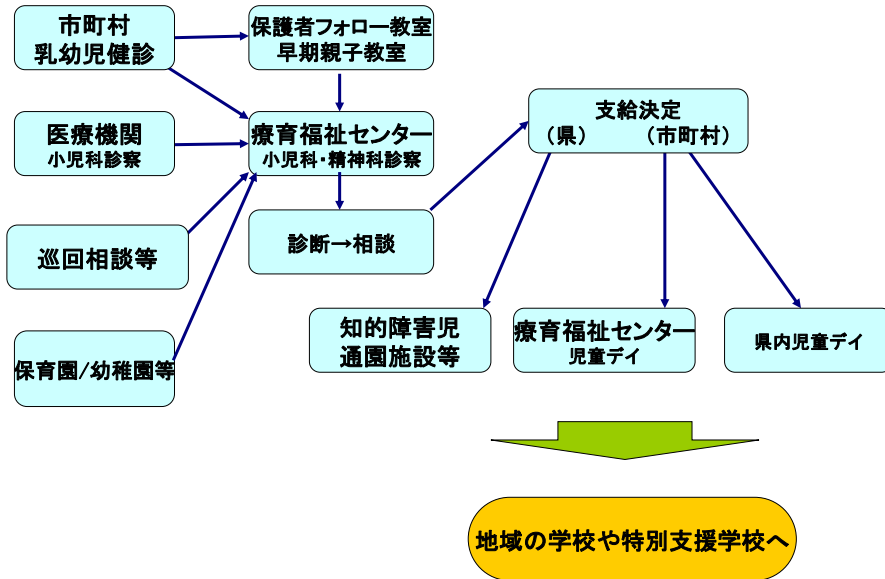
- 職員配置: サービス管理責任者、保育士
専任職員: 7名(保育士6名、サービス管理責任者1名)
- 定員: 20名/1日
- 児童デイサービスの事業で契約が必要(利用料あり)
- 対象: 自閉症などの広汎性発達障害又はその疑いのある就学前児童で、介護給付費の支給決定を受けている者(親子通園)
- 最大週1回の通園
- TEACCHプログラムのアイデアを活かした個別療育

TEACCHプログラムとは・・・
TEACCHとは「自閉症及び関連するコミュニケーション障害の子どものための治療と教育」(Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped CHildren)
アメリカ・ノースカロライナ州で開発された自閉症の特性に合わせた一貫性のある包括的な援助システムのことです。

○週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前Ⅰ (9:00～10:30)	定期療育 ①	定期療育 ⑤	定期療育 ⑨	定期療育 ⑬	ケース検討会
午前Ⅱ (10:30～12:00)	定期療育 ②	定期療育 ⑥	定期療育 ⑩	定期療育 ⑭	保護者教室 (H22年度:9回)
午後Ⅰ (13:00～14:30)	定期療育 ③	定期療育 ⑦	定期療育 ⑪	定期療育 ⑮	スタッフ会議
午後Ⅱ (15:00～16:30)	定期療育 ④	定期療育 ⑧	定期療育 ⑫	定期療育 ⑯	職員研修

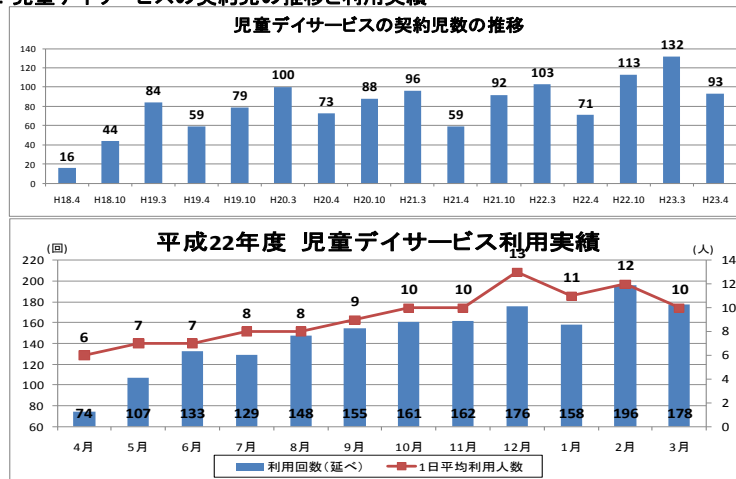
○療育への主な流れ(児童デイサービス)



【グループでの支援】

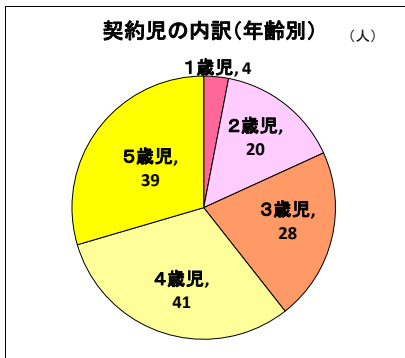
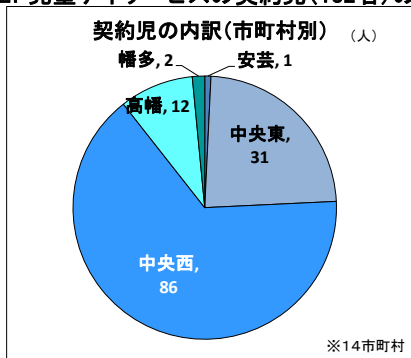
	対象者	内容
早期グループセッション 「たんぼぼ」	診断直後の幼児	親子ふれあい遊びと保護者支援
早期グループセッション 「べんぎん」	個別支援のシステムが入るまでの幼児	アセスメント及び再構造化と保護者支援
ソーシャルスキルグループ	高機能自閉症幼児	小集団でのソーシャルスキル学習

1. 児童デイサービスの契約児の推移と利用実績



2. 児童デイサービスの契約児(132名)の状況

(H23.3.31現在)



3. その他

・ 機関訪問及び支援連携

①機関訪問 13件 (保育園・幼稚園:11件、小学校:2件)

②保護者研修会 9回/年

③地域支援協力

・中央東、中央西福祉保健所 早期親子療育教室

・中央東福祉保健所 療育相談会

・高知発達障害研究プロジェクト

・ つばさ親の会(隔月開催・卒園生保護者中心)への支援連携

・ 療育参加及び見学・研修の受け入れ状況(別表)

【療育参加及び見学・研修の受け入れ状況】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
療育参加者	保護者	74	116	148	135	167	173	170	167	187	153	200	184	1,874
	加配・支援員	14	18	25	22	22	30	25	24	31	35	31	30	307
	園長・担任	4	6	2	3	2	2	6	1	2	6	10	5	49
	計	92	140	175	160	191	205	201	192	220	194	241	219	2,230
見学・研修参加者	関係機関													
	行政福祉	7	4	30	77	1	6	2	21	8	3	2	1	162
	教育	2		2	49							2	3	58
	医療	4			4							1		9
	保護者	6	22	27	17	15	6	3	5	9	10	6	6	132
学生・一般その他	1		41	11	4	1							58	
計	20	26	100	158	20	13	5	26	17	13	11	10	419	